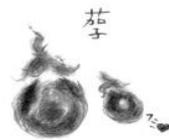


新鮮！安い！楽しい！生産者こそが主人公



伊那の産直市場グリーンファームを視察研修



伊那市内、畑作地帯の高台にある「株」産直市場グリーンファームは、20年前に設立された農産物直売所。鉄骨（じく）り、床が土間のままという質素な建物です。年間の売上げが10億円、登録生産者数が2

10月11日、12日の2日間、日本共産党議員団は、長野県伊那市にある「株」産直市場グリーンファームと諏訪市の地域新エネルギービジョンについて視察研修を行いました。

150人、販売している商品は野菜、果物、花木をはじめ、地元産の食品、加工品、雑貨、農業資材など1万種類以上。年間58万人もの人々が訪れるという驚くべき実績を誇る、全国トップクラスの活気あふれる直売所です。

地元農家と密着して

所狭しと品物が並び店内を見学したあと、設立者でありグリーンファームの代表取締役会長である、小林史磨さんからお話を伺いました。開設当初から、生産農家のやる気を引き出す独自の運営方法、キノコや地元の菓子、昆虫！など伊那地域の自然が生み出す産物は全て商品として受け入れ、出荷したい人は誰でもOKという、農協などの直売所ではあり得ない「生産者が主役」の産直市場です。また生産農家は、産直市場の最

も安定した消費者でもありません。グリーンファームを介してお金が地域内を循環し、地域の元気と雇用を作り出す産直市場となっていました。

産直農家は医者じゃない



直売所は、税金を使わない公共事業「地域の元気を作り出す」地域の人の交流の場「農家の高齢者は医者通いする暇もないほど、産直市場に夢中」など、小林さんのお話に引き込まれました。江南市内の青空市「朝市」も改善できるところをさらに改善し、耕作放棄地対策が少しでも進むよう、取り組みを強めなくてはと感じました。グリーンファームへは、中央自動車道伊那インターから5分です。

諏訪市 新エネルギービジョン

地球温暖化や環境汚染に対応するために新エネルギービジョンを策定した諏訪市を訪問し、研修してきました。諏訪市では、H17年度に、専門家の協力を得て「ビジョン」を策定。基本方針として①太陽エネルギーなど自然の恵みを活用②リサイクル資源の活用など循環型社会の実現 ③住民・事業者・市の協働体制の構築④普及啓発のためソフト事業を推進することを掲げています。

実際にはこれからの取り組みとなりますが、原発事故を受けて、新エネルギーの導入はより重要な課題です。今後には生かしていきたいと思えます。

いたくら予定候補が県に要請 脱原発と防災計画の見直しを

10月19日、かわえ明美衆院比例予定候補やいたくら正文予定候補などが県庁を訪れ、岐阜県が発表した敦賀原発で福島原発並みの事故が発生した場合、江南市を含む尾北地域が年間200ミリシーベルト以上の汚染

10月19日、かわえ明美衆院比例予定候補やいたくら正文予定候補などが県庁を訪れ、岐阜県が発表した敦賀原発で福島原発並みの事故が発生した場合、江南市を含む尾北地域が年間200ミリシーベルト以上の汚染

復興への道 いまだ遠く…

宮城県名取市閑上(ゆりあげ)地区

10月25日、津波の被害が大きかった名取市に行ってきた。26日からの日本女性会議への参加を兼ねて、江南市女性連絡協議会が交流を行っているNPO法人「地球のステージ」の事務所を訪問し、ボランティアの方から津波被害の状況をお聞きしました。



左の写真 津波の際倒れたガードレールと主のいない家

また壊滅的な被害を受けた閑上地区のみなさんが集まって、閑上アミーズ」という会を作り、被災者の自立と支援を目的に、色鮮やかなレインボーアクリルたわしやクリスマスグッズの製作をしているところにもお邪魔し、交流することができました。(写真下)



その後、亡くなった生徒の名前が書き込まれた慰霊碑の建つ閑上中学校や閑上漁港などを車で周りました。津波が襲った地域は、雑草が生い茂り、ポツンポツンと家が



港の周辺は、復旧工事が始まっていますが、船などが打ち上げられたままになっているところもあり復興はいまだ遠いと実感。こういうところこそ復興予算を！ 森 ケイ子